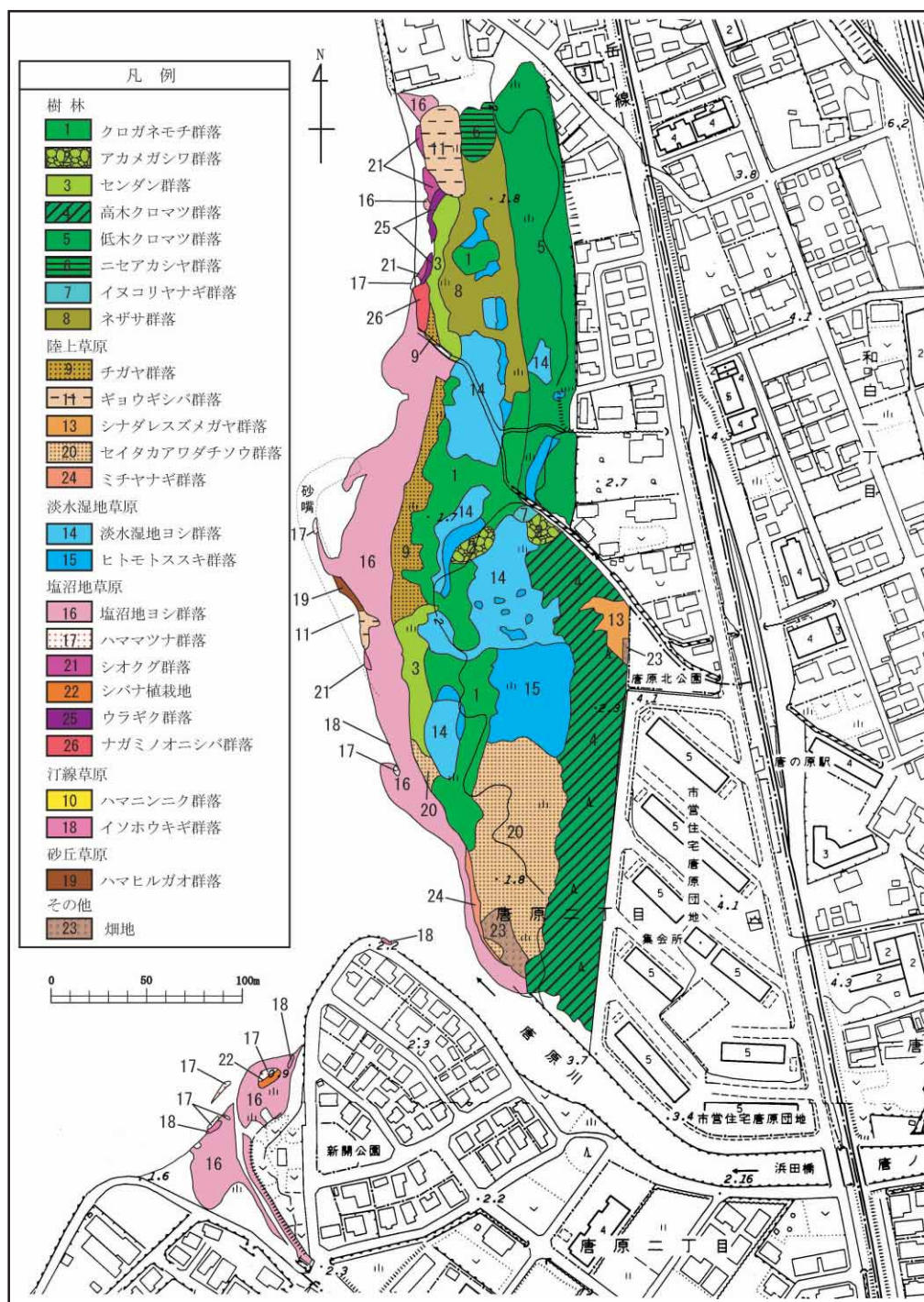


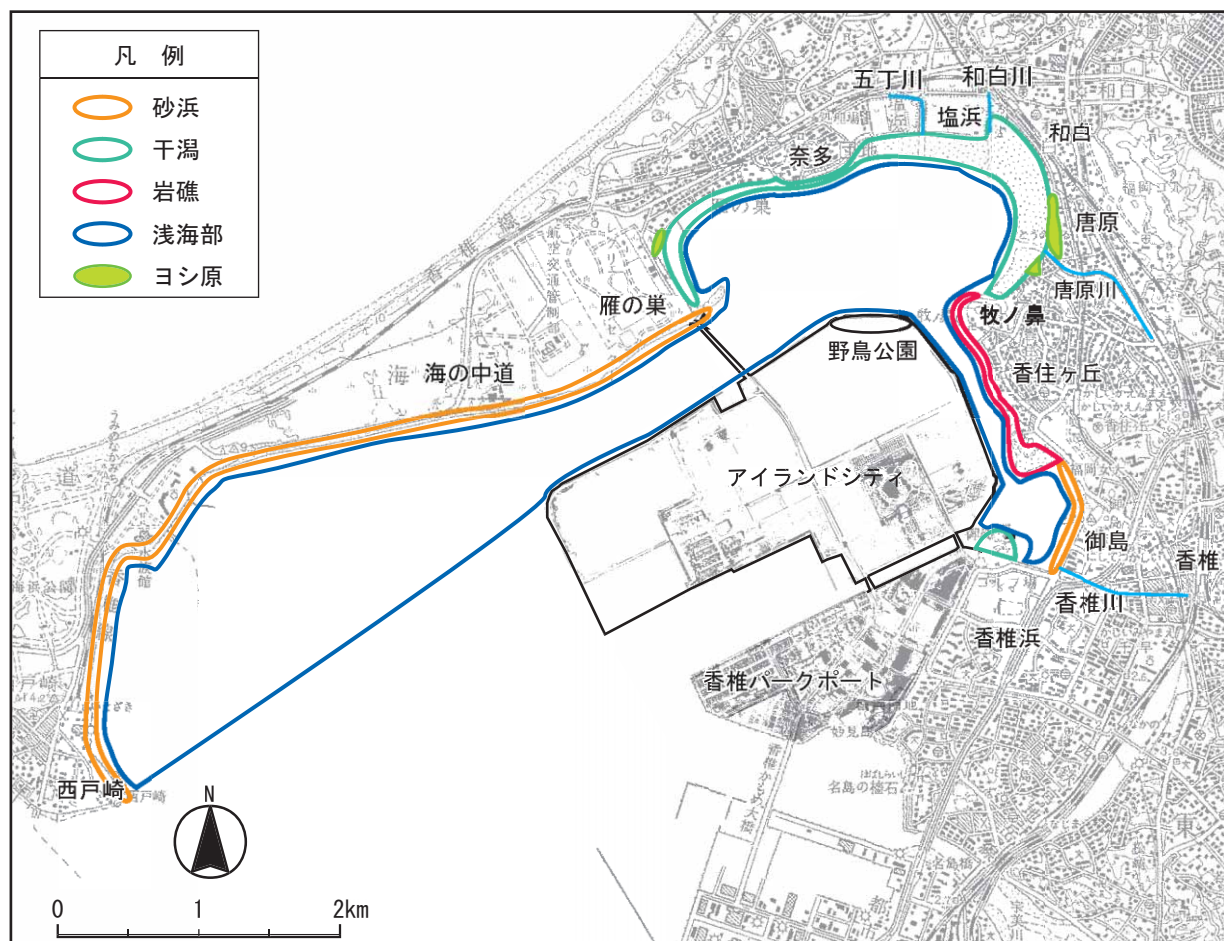
## ■エコパークゾーン周辺の緑地の植生（唐原川河口）



〔資料：「アイランドシティ整備事業環境監視結果（平成16年度）」（平成17年7月 福岡市港湾局）〕

和白干潟に流入する唐原川河口には、塩沼地植物を含む緑地が広がり、貴重な植物がみられるとともに、鳥類や底生生物などの生息場となっている。

## ■海生生物の生息環境の分布



砂浜



干潟



岩礁



浅海部

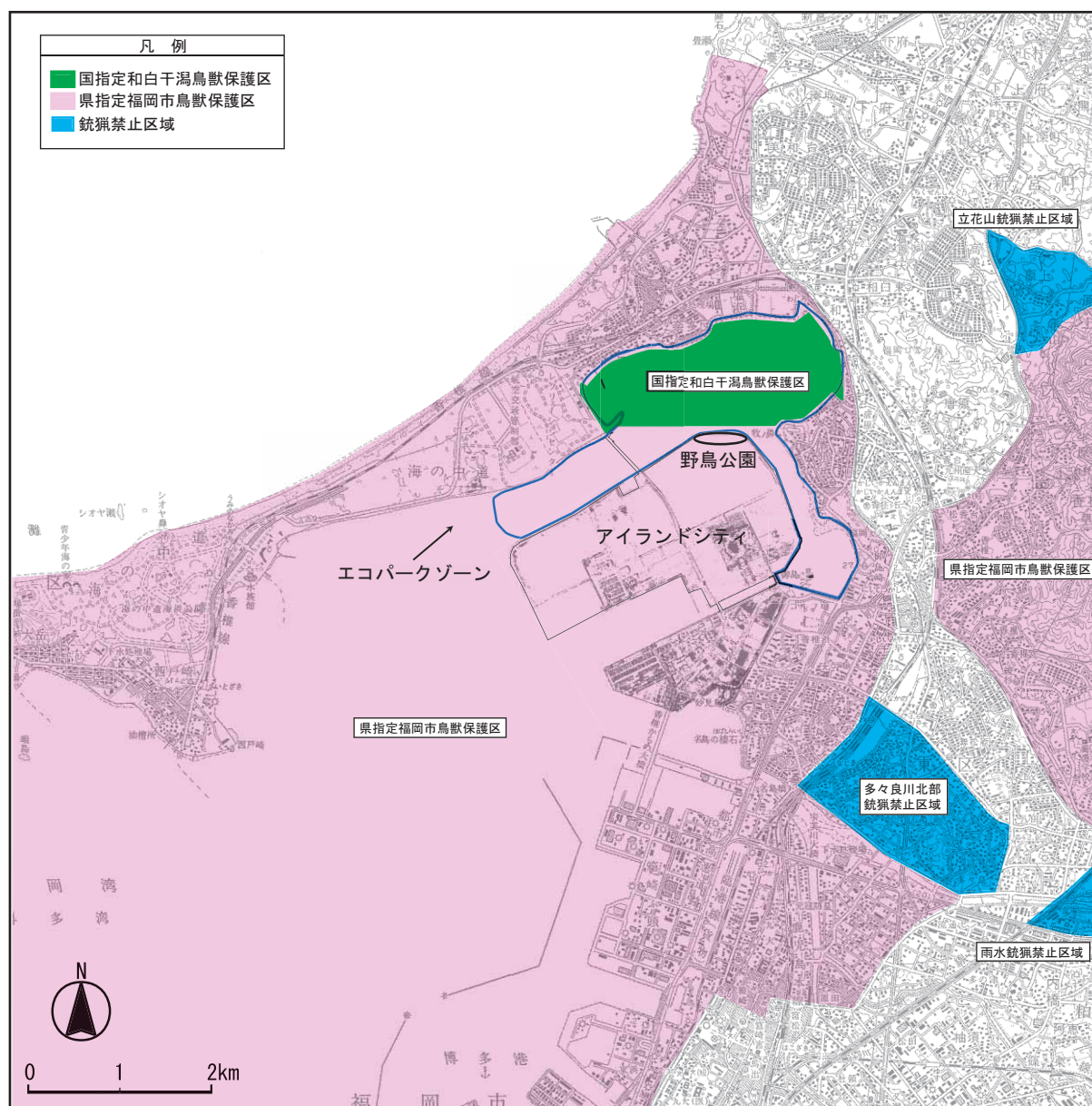


ヨシ原

エコパークゾーン周辺の海岸・海域の環境は、地形や底質基盤の状況から、砂浜、干潟、岩礁、浅海部、ヨシ原などに区分でき、それぞれの環境区分に特徴的な海生生物が生息しており、それらの一部は鳥類の食物となっている。



## ■鳥獣保護区等の指定状況

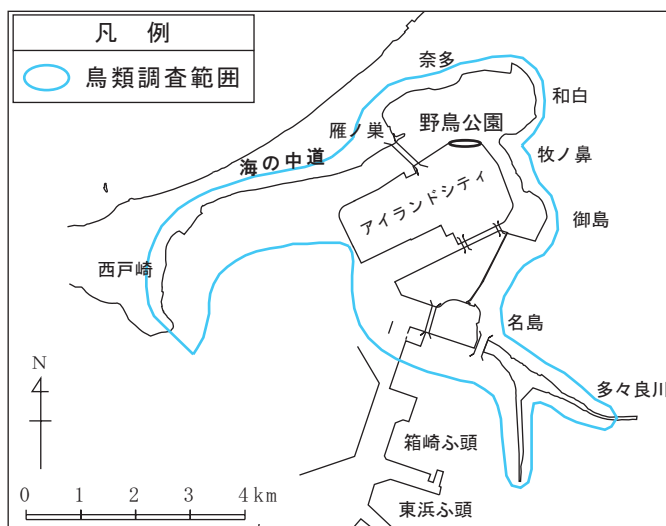


[資料：「福岡県鳥獣保護区等位置図（平成14年度）」（平成14年10月 福岡県）より作成]

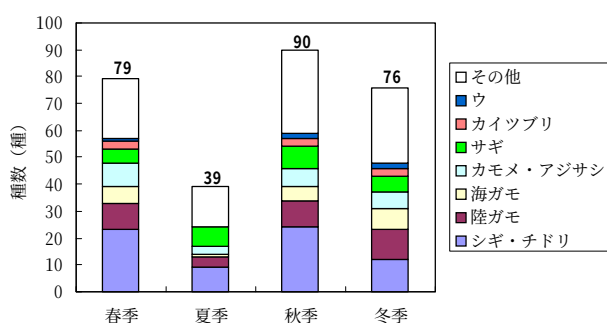
エコパークゾーンでは、和白干潟およびその前面海域の254㏊が国指定和白干潟鳥獣保護区となっている。

## ■鳥類の種数・個体数（水域）

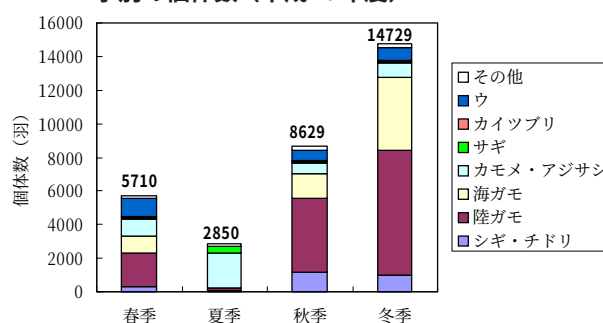
鳥類の調査範囲



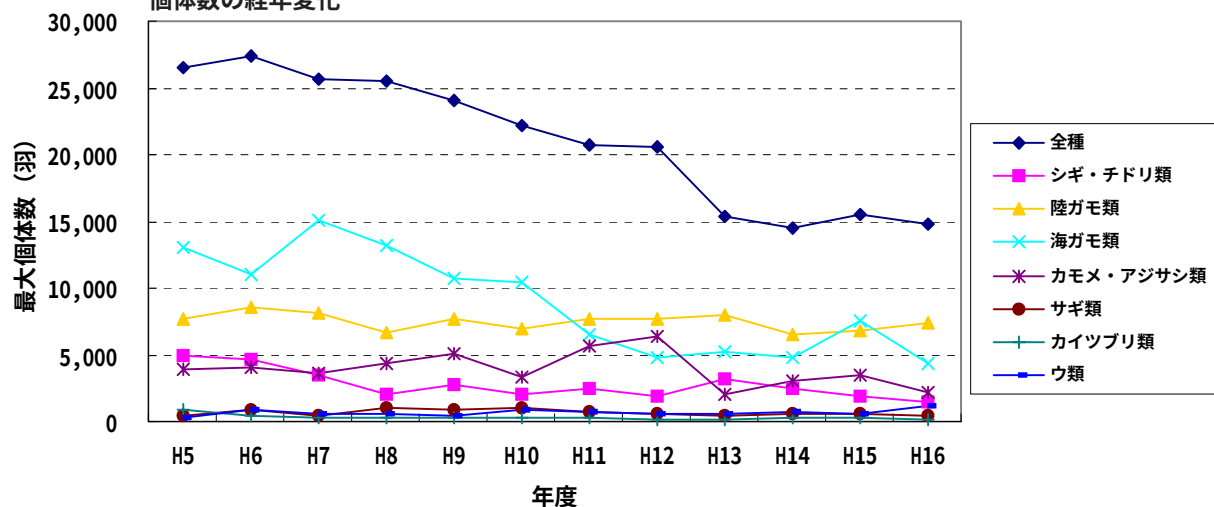
季別の種数（平成16年度）



季別の個体数（平成16年度）



個体数の経年変化



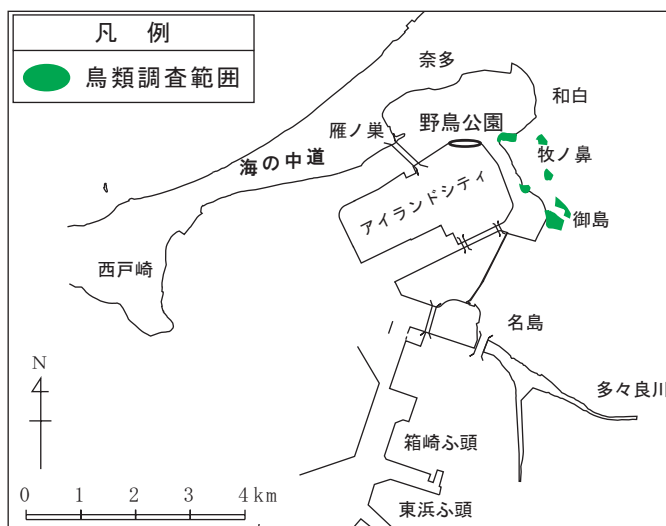
[資料：「アイランドシティ整備事業環境監視結果（平成16年度）」（平成17年7月 福岡市港湾局）]

エコパークゾーン周辺の水域でみられる鳥類の種数は、シギ・チドリ類が多くみられる春季（79種）と秋季（90種）に多く、夏季に39種と少ない。個体数は、カモ類が多くみられる冬季に約15,000羽と最も多く、夏季に約3,000羽と少ない。

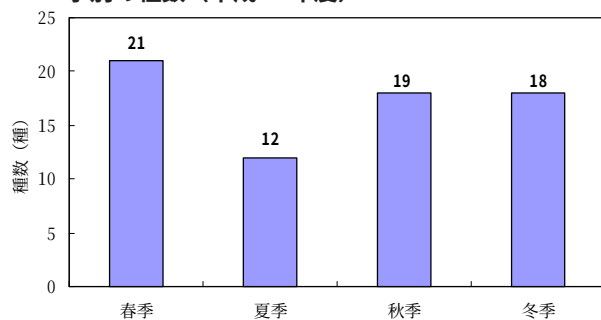
個体数の経年変化をみると、平成5～13年度にかけて主に海ガモ類が減少傾向にあったが、平成13～16年度は全種で15,000羽前後と横ばい傾向にある。

## ■鳥類の種数・個体数（緑地）

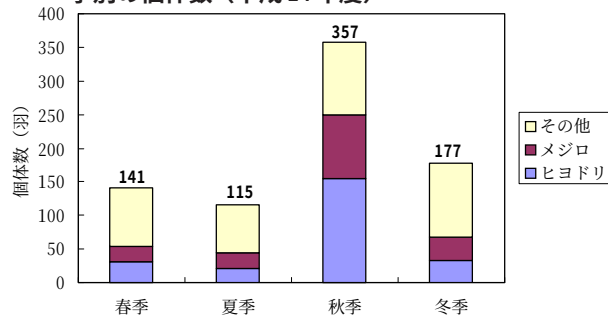
鳥類の調査範囲



季別の種数（平成14年度）



季別の個体数（平成14年度）



[資料：「平成14年度 鉄軌道導入環境調査委託報告書」（平成15年3月 福岡市）]

エコパークゾーン周辺の緑地でみられる鳥類の種数は、春季に21種と最も多く、夏季に12種と少ない。個体数は、ヒヨドリ、メジロが多くみられる秋季に約360羽と最も多く、夏季に約120羽と少ない。

## ■水鳥のよくみられる時期

| 類 別      | 生 息 時 期 |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |
|----------|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
|          | 冬       |    | 春  |    |    | 夏  |    |    | 秋  |     |     | 冬   |
|          | 1月      | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
| シギ・チドリ   | ←       |    |    |    | →  |    |    |    | ←  |     |     | →   |
| 陸ガモ      | ←       |    |    | →  |    |    |    |    |    | ←   |     | →   |
| 海ガモ      | ←       | →  |    |    |    |    |    |    |    |     | ←   | →   |
| カモメ・アジサシ | ←       |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     | →   |
| サギ       | ←       |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     | →   |
| カイツブリ    | ←       |    | →  |    |    |    |    |    |    |     | ←   | →   |
| ウ        | ←       |    | →  |    |    |    |    |    |    | ←   |     | →   |



ハマシギ



コアジサシ



ヒドリガモ



スズガモ



クロツラヘラサギ



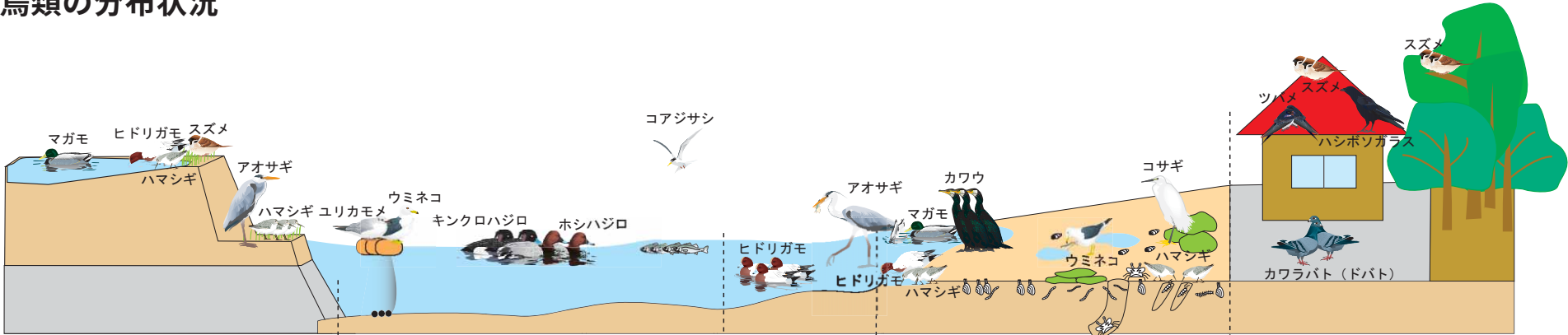
ツクシガモ



ミヤコドリ

春と秋はハマシギなどのシギ・チドリ類が渡りの中継地として、夏は主にカモメ・アジサシ類のコアジサシが繁殖地として、冬はヒドリガモ、スズガモなどのカモ類が越冬地としてエコパークゾーンを利用する。クロツラヘラサギ、ツクシガモ、ミヤコドリなどの貴重種は冬にみられる。

# ■鳥類の分布状況



| 環境区分   | アイランドシティ       | 水域                              | 水辺 | 干潟             | 市街地    | 公園・緑地 |
|--------|----------------|---------------------------------|----|----------------|--------|-------|
| 野鳥類型区分 | 干潟依存型（シギ・チドリ類） |                                 |    | 干潟依存型（シギ・チドリ類） |        |       |
|        | 水辺依存型（サギ類）     |                                 |    | 水辺依存型（サギ類）     |        |       |
|        |                | 水域依存型（海ガモ類・カイツブリ類）              |    |                |        |       |
|        |                | 干潟・水辺・水域利用型（陸ガモ類・カモメ・コアジサシ類・ウ類） |    |                |        |       |
|        | 市街地利用型         |                                 |    |                | 市街地利用型 |       |
|        |                |                                 |    |                |        |       |

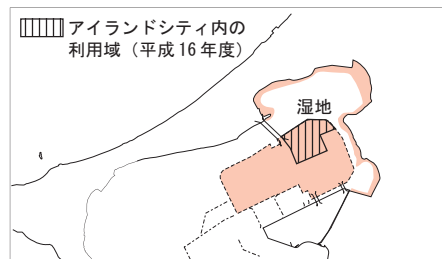


エコパークゾーン周辺に生息する鳥類は、シギ・チドリ類などは干潟に、サギ類などは水辺に、海ガモ類・カイツブリ類などは水域に、陸ガモ類・カモメ・アジサシ類・ウ類などは干潟・水辺・水域に、スズメ・カラスなどは市街地に主に分布している。

## ■鳥類の土地利用状況

### 環境区分

| アイランドシティ | 水域 | 水辺 | 干潟 | 市街地 | 公園緑地 |                                |
|----------|----|----|----|-----|------|--------------------------------|
|          |    |    |    |     |      | 干潟依存型（シギ・チドリ類）                 |
|          |    |    |    |     |      | 水辺依存型（サギ類）                     |
|          |    |    |    |     |      | 水域依存型（海ガモ類・カイツブリ類）             |
|          |    |    |    |     |      | 干潟・水辺・水域利用型（陸ガモ類・カモメ・アジサシ類・ウ類） |
|          |    |    |    |     |      | 市街地利用型                         |



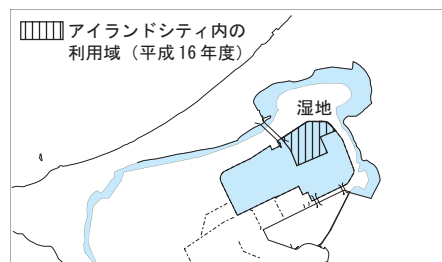
#### 干潟依存型鳥類の土地利用状況

##### ○利用している種 【シギ・チドリ類】

和白干潟で見られる小型から中型の鳥。干潟では群を作り、生活する。代表的な鳥はハマシギ、シロチドリ。

##### ○利用の状況

干潮時には和白干潟でゴカイやカニなどの底生動物を食べ、満潮時にはアイランドシティ内で休む。近年では、アイランドシティ内の湿地に発生する昆虫類や底生動物を食べることが知られている。



#### 水辺依存型鳥類の土地利用状況

##### ○利用している種 【サギ類】

干潟、海岸、河川、農耕地などにみられる大型の鳥。代表的な鳥はアオサギ、ダイサギ、コサギ。

##### ○利用の状況

和白干潟や浅瀬の水辺、アイランドシティ内の湿地で魚などを食べ、干潟や汚濁防止膜、草地などで休む。アオサギは昼夜に活動するサギ類で、干潟や浅瀬で活動する。ダイサギ、コサギは夜間は周辺の緑地で休む。



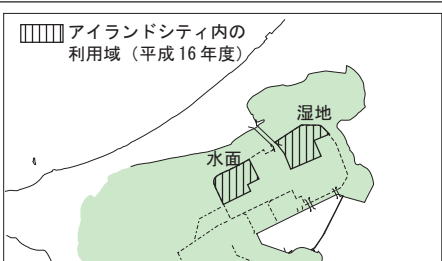
#### 水域依存型鳥類の土地利用状況

##### ○利用している種 【海ガモ類・カイツブリ類】

主に水域で採食し、水上で休む鳥。水中に潜り食物を捕るため、ある程度の水深のある水域を好む。種によっては陸域で休息することもある。代表的な鳥はスズガモ、ホシハジロ、カンムリカイツブリ。

##### ○利用の状況

和白海域や海の中道の海域を採食、休息場として利用する。満潮・干潮による利用の仕方に大きな変化はない。



#### 干潟・水辺・水域利用型鳥類の土地利用状況

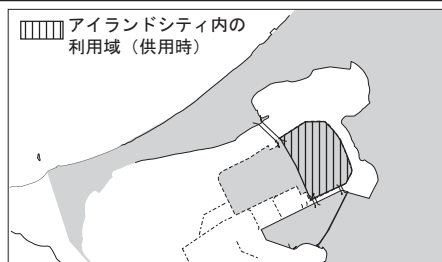
##### ○利用している種 【陸ガモ類・カモメ・アジサシ類・ウ類】

陸ガモ類、カモメ・アジサシ類・ウ類は干潟、水辺、水域の全ての環境を使用するが、利用の仕方は種類によって様々である。代表的な鳥はヒドリガモ、マガモ、ユリカモメ、ウミネコ、コアジサシ、カワウ。

##### ○利用の状況

陸ガモ類は和白干潟や海域の水辺を主な採食場とし、干潟、水辺、海域の広い範囲で休む。

カモメ・アジサシ類、ウ類は和白海域・海の中道の海域を主な採食場、休息場とする。和白干潟は主に休息場として利用する。



#### 市街地利用型鳥類の土地利用状況

##### ○利用している種 【陸域に生息する鳥】

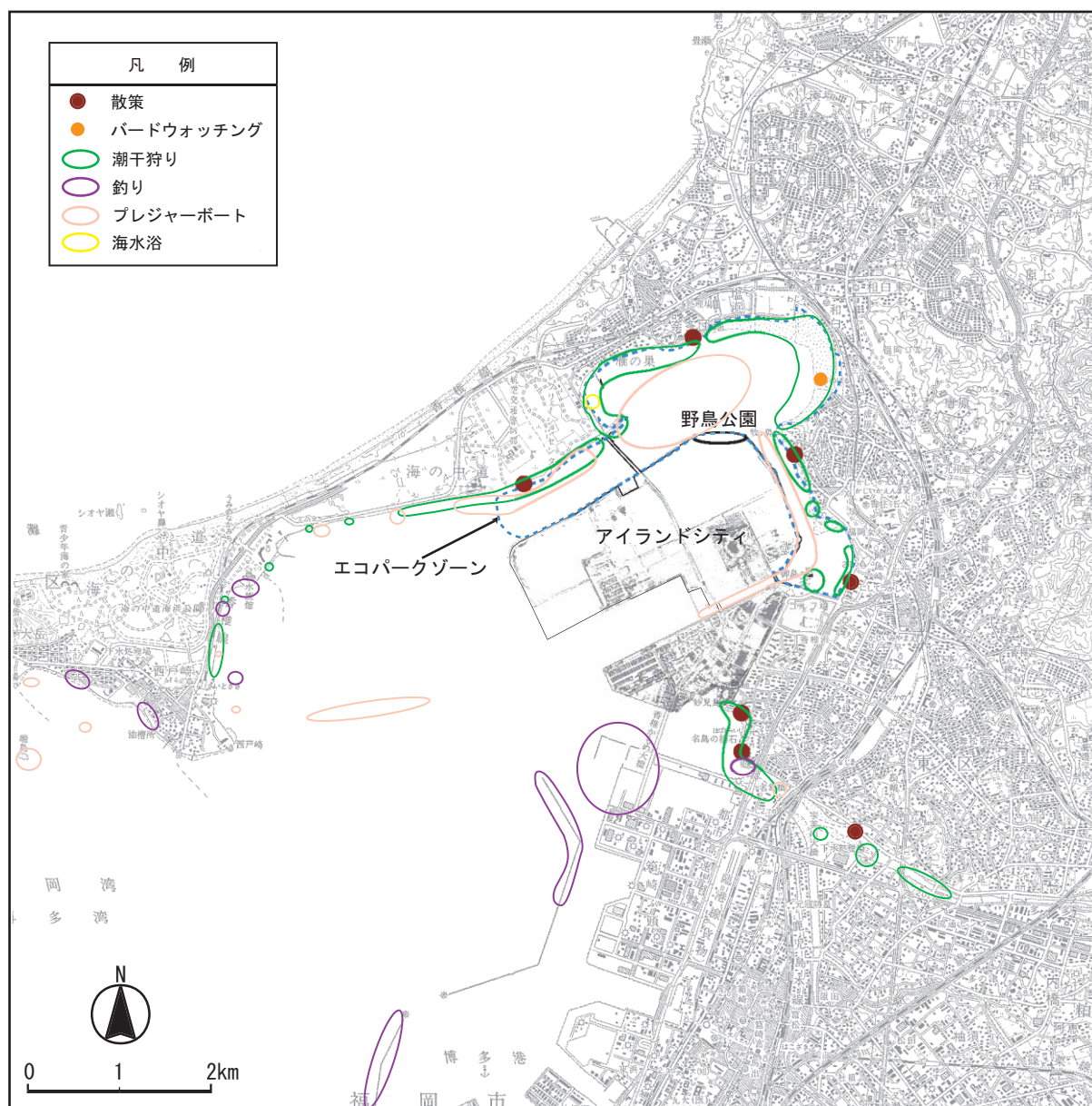
和白干潟周辺の住宅地・緑地・公園で生息するスズメ、カラス、ツバメ、シジュウカラなどの市街地に生息する鳥。

##### ○利用の状況

主な生息場は住宅地・緑地・公園で、採食場、休息場として利用している。スズメ、カラスなどは和白干潟や海の中道の海岸を採食場として利用していることがある。



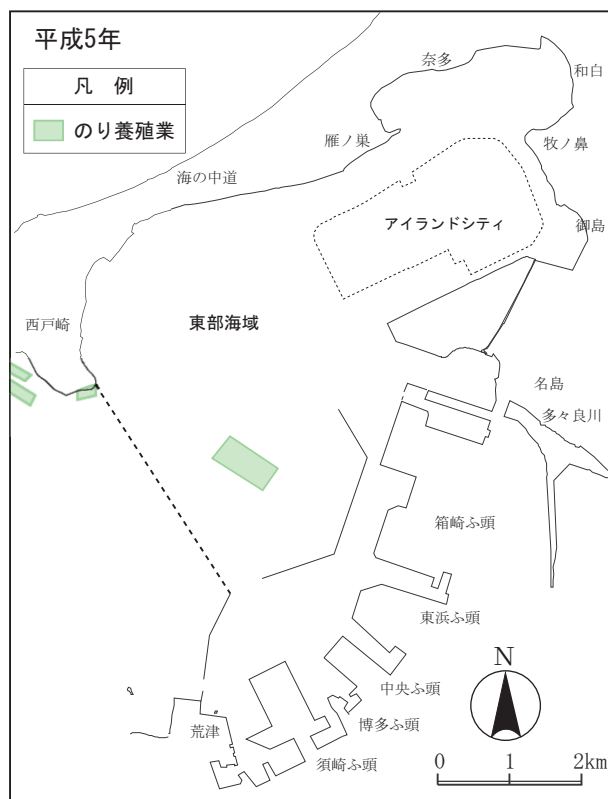
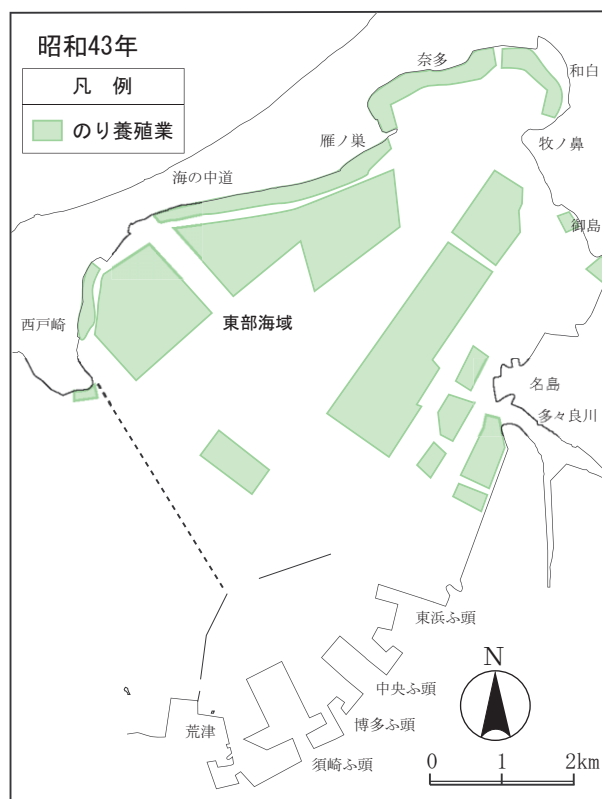
## ■人と自然とのふれあい活動の状況



[資料：平成12年4月～平成17年3月 アイランドシティ環境監視調査 調査野帳]

エコパークゾーン内は、潮干狩り、プレジャーボート、散策やバードウォッチングなどに利用されている。エコパークゾーン周辺では、多々良川河口での潮干狩り、防波堤での釣りなどの利用がみられる。

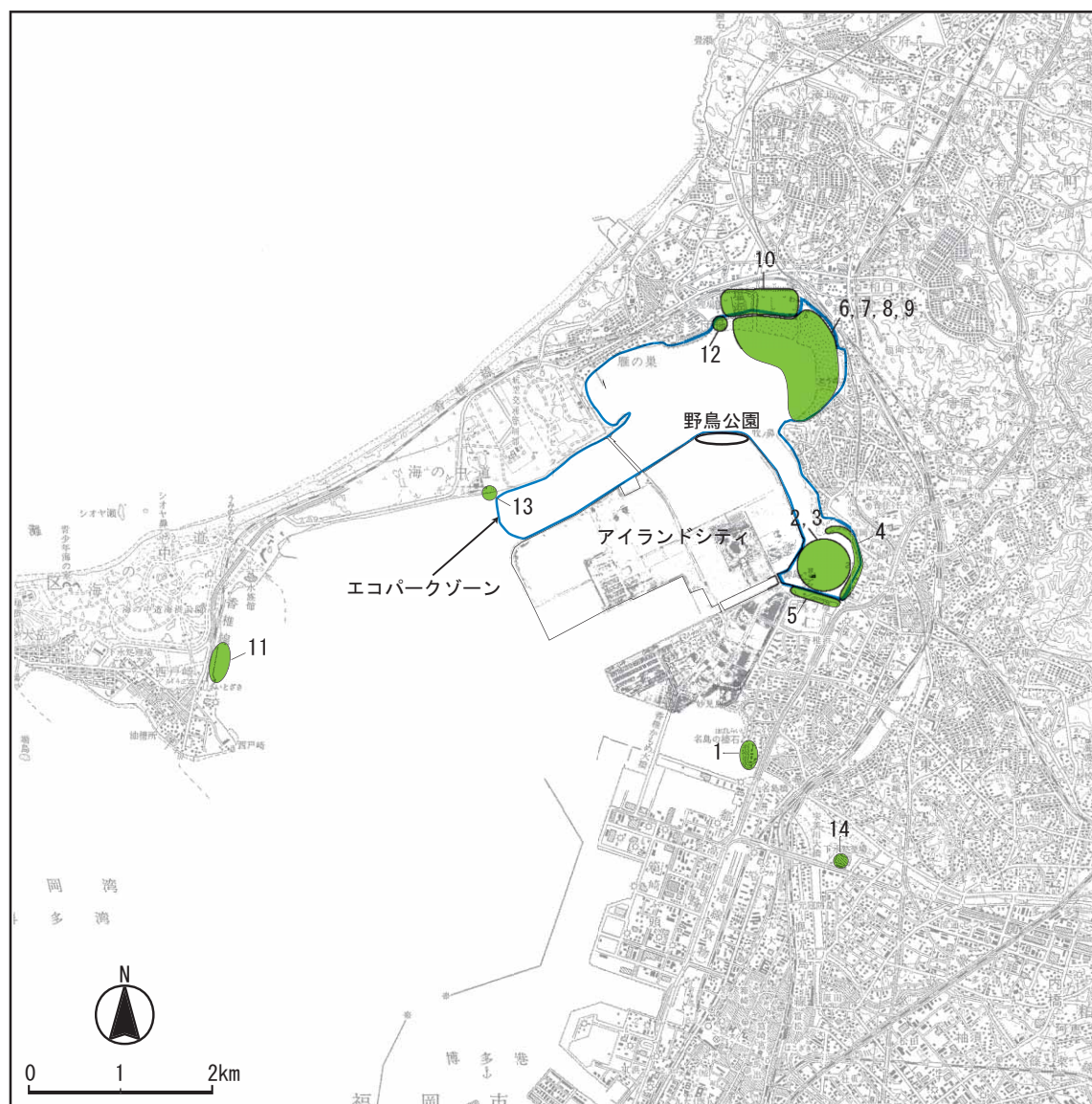
## ■ 東部海域の区画漁業権図



[資料：「福岡市漁村史」(平成10年3月 福岡市漁業協同組合)]

東部海域では、昭和30～40年代にはノリ、アサリ漁が主に行われ、中でもノリ養殖漁業は養殖技術の飛躍的な進歩により盛んに行われていたが、その後埋立の実施などにより、現在ではノリ養殖場はほとんどなくなった。

## ■環境保全に向けた取り組みと実施位置



| 番号 | 地区名          | 整備                     | 実施年度          | 備考  |
|----|--------------|------------------------|---------------|-----|
| 1  | 名島           | 護岸, 突堤                 | 平成13年度～平成19年  | 工事中 |
| 2  | 香椎(御島)       | 覆砂, 作濤                 | 平成9年度～平成13年   |     |
| 3  |              | アマモ場                   | 平成16年度～       | 継続中 |
| 4  | 香椎(片男佐～香住ヶ丘) | 護岸, 養浜, 遊歩道            | 平成9年度～平成12年   |     |
| 5  | 香椎(香椎浜)      | 護岸, 養浜, 遊歩道            | 平成13年度～平成17年  |     |
| 6  | 和白           | 干潟耕耘                   | 平成15年度～       | 継続中 |
| 7  |              | アサリ放流                  | 平成17年度～       | 継続中 |
| 8  |              | アオサ回収(海浜清掃)            |               | 継続中 |
| 9  |              | アオサ回収(海域)              | 平成8年度～        | 継続中 |
| 10 | 和白(塩浜)       | 護岸, 遊歩道, 植樹            | 平成14年度～平成19年  | 工事中 |
| 11 | 西戸崎          | 養浜, 突堤, 遊歩道            | 平成12年度～平成15年  |     |
| 12 | 和白(水処理センター)  | 下水高度処理                 | (開始年月日)平成5年度～ |     |
| 13 |              | 排水先移動, 海水淡水化施設排水との混合放流 | 平成17年         |     |
| 14 | 東部(水処理センター)  | 下水高度処理                 | (開始年月日)平成5年度～ |     |

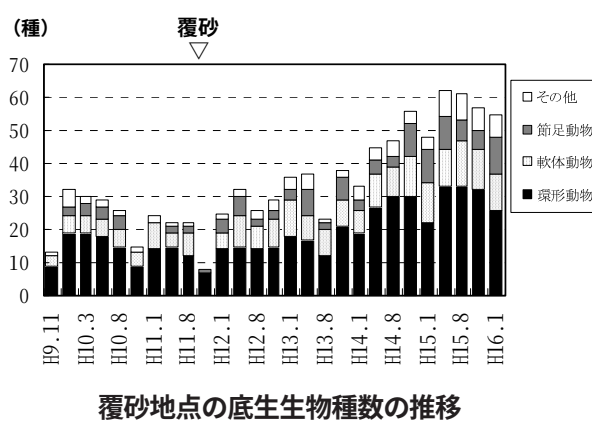
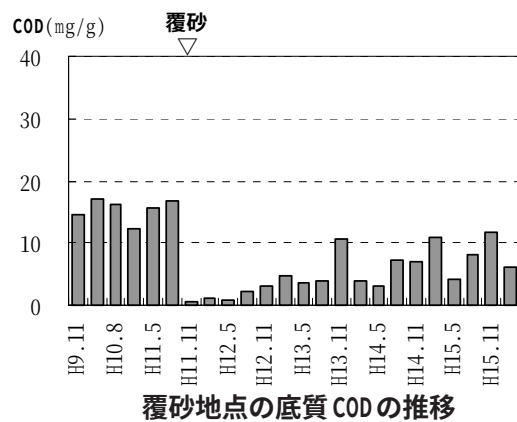
エコパークゾーン周辺における環境保全の取り組みとして、名島、香椎、塩浜、西戸崎における護岸、養浜、遊歩道などの整備、和白における干潟耕耘、アサリ放流、アオサ回収、御島における覆砂、作濤、アマモ場造成、和白および東部水処理センターにおける下水高度処理、和白水処理センターにおける排水先移動および海水淡水化施設排水との混合放流などが行われている。



## ■ 覆砂，護岸整備など（御島地区）



[資料：エコパークゾーンのパフレットより]



[資料：「平成 15 年度 香椎地区底質及び底生生物調査業務委託 報告書」（平成 16 年 3 月 福岡市）]



アマモ場造成 6 ヶ月後の状況



アマモに産み付けられたコウイカの卵

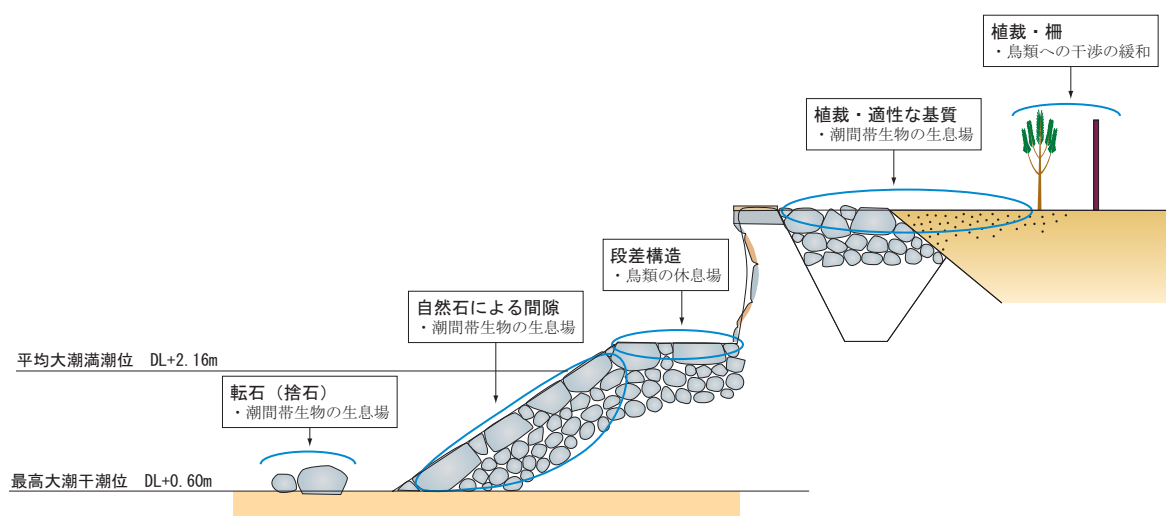
エコパークゾーン内の御島ゾーンでは，覆砂（面積約 13 畝，厚さ約 30cm），作溝（延長 1,300m，深さ 1.5m），アマモ場造成，護岸整備，養浜などの事業が行われており，底質改善や生物相の回復などの効果がみられた。



## ■護岸整備（塩浜地区）

### 各護岸構造における生物に対して期待される効果および結果

| 護岸構造         | 対象生物  | 期待される効果                                                                                             | 結果                                            |
|--------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 段差構造         | 鳥類    | 満潮線よりも高い箇所に段差構造を設けることによって、シギ・チドリ類など鳥類が休息場として利用することが期待される。                                           | コガモ、イソヒヨドリの利用が確認された。                          |
| 自然石を用いた石組み護岸 | 潮間帯動物 | 自然石を組み合わせ、間隙の多い護岸を築造することによって、護岸表面だけでなく、護岸側面や護岸内部が貝類（カサガイ類、タマキビガイ類など）やカニ類（フタバカクガニなど）などの生息場になると期待される。 | アマガイ、タマキビガイ、フジツボ類、フタバカクガニやベンケイガニ類などの生息が確認された。 |
| 転石（捨石）       | 潮間帯動物 | 干潟上に転石を配置することによって、転石表面にはカキ・フジツボ類など、転石下にはイソガニ類などが生息することが期待される。                                       | マガキ、フジツボ類、ケフサイソガニなどの生息が確認された。                 |
| 植栽、適正な基質     | 潮間帯動物 | 適当な大きさの礫や土壌を配置するとともに、適当な植栽を施すことによって、護岸の背後域がカニ類などの生息場になると期待される。                                      | （施工中）                                         |
| 植栽・柵         | 鳥類    | 護岸に植栽や柵を設置することによって、前面海域を生息場とするカモ類等の鳥類に対して、人の護岸利用による干渉を緩和する効果が期待される。                                 | （施工中）                                         |



石組みの間に潜むアマガイとタマキビガイ



段差構造で休息するコガモ（写真中央：2羽）とイソヒヨドリ（写真右下：1羽）

〔資料：「平成15年度 和白（塩浜地区）護岸整備に係る環境調査業務委託報告書」（平成16年3月 福岡市）〕

塩浜地区では、平成15年度から老朽化した護岸を生態系に配慮した多孔質石積護岸により整備した。その結果、護岸や転石は貝類、フジツボ類、カニ類などに利用され、護岸の段差構造は鳥類の休息場として有効利用されていた。

## ■干潟耕耘，アサリ放流など（和白地区）



手掘りによる干潟耕耘



干潟耕耘地点の生物調査



耕耘機による干潟耕耘



耕耘機による耕耘後の干潟



アサリの放流



アマモの植え付け

和白地区では、干潟の底質改善や生物の増加を目的とし、市民の参加により、平成15年度から干潟耕耘が行われている。また、アサリの放流やアマモの植え付けなどの環境保全活動も行われている。

## ■市内水処理センターにおける下水高度処理の整備状況

| 水処理センター | 項目                        | H5年度    | H6年度    | H7年度    | H8年度    | H9年度    | H10年度   | H11～<br>H16年度 |
|---------|---------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------------|
| 西戸崎     | 水処理能力(m <sup>3</sup> /日)  | 6,500   | 6,500   | 6,500   | 6,500   | 6,500   | 6,500   | 6,500         |
|         | 高度処理能力(m <sup>3</sup> /日) | 0       | 0       | 0       | 6,500   | 6,500   | 6,500   | 6,500         |
|         | 整備率(%)                    | 0       | 0       | 0       | 100     | 100     | 100     | 100           |
| 和白      | 水処理能力(m <sup>3</sup> /日)  | 36,600  | 36,600  | 36,600  | 36,600  | 45,800  | 45,800  | 45,800        |
|         | 高度処理能力(m <sup>3</sup> /日) | 9,100   | 18,200  | 27,400  | 27,400  | 36,600  | 36,600  | 45,800        |
|         | 整備率(%)                    | 25      | 50      | 75      | 75      | 80      | 80      | 100           |
| 東部      | 水処理能力(m <sup>3</sup> /日)  | 116,700 | 116,700 | 133,300 | 133,300 | 133,300 | 133,300 | 150,000       |
|         | 高度処理能力(m <sup>3</sup> /日) | 50,000  | 66,700  | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 116,700 | 150,000       |
|         | 整備率(%)                    | 43      | 57      | 75      | 75      | 75      | 88      | 100           |
| 中部      | 水処理能力(m <sup>3</sup> /日)  | 300,000 | 300,000 | 300,000 | 300,000 | 300,000 | 300,000 | 300,000       |
|         | 高度処理能力(m <sup>3</sup> /日) | 200,000 | 275,000 | 300,000 | 300,000 | 300,000 | 300,000 | 300,000       |
|         | 整備率(%)                    | 67      | 92      | 100     | 100     | 100     | 100     | 100           |
| 西部      | 水処理能力(m <sup>3</sup> /日)  | 131,250 | 150,000 | 150,000 | 150,000 | 168,750 | 168,750 | 168,750       |
|         | 高度処理能力(m <sup>3</sup> /日) | 56,250  | 75,000  | 93,750  | 93,750  | 112,500 | 131,250 | 168,750       |
|         | 整備率(%)                    | 43      | 50      | 63      | 63      | 67      | 78      | 100           |
| 合計      | 水処理能力(m <sup>3</sup> /日)  | 591,050 | 609,800 | 626,400 | 626,400 | 654,350 | 654,350 | 671,050       |
|         | 高度処理能力(m <sup>3</sup> /日) | 315,350 | 434,900 | 521,150 | 527,650 | 555,600 | 591,050 | 671,050       |
|         | 整備率(%)                    | 53      | 71      | 83      | 84      | 85      | 90      | 100           |

注) 高度処理能力は、りん除去のみ

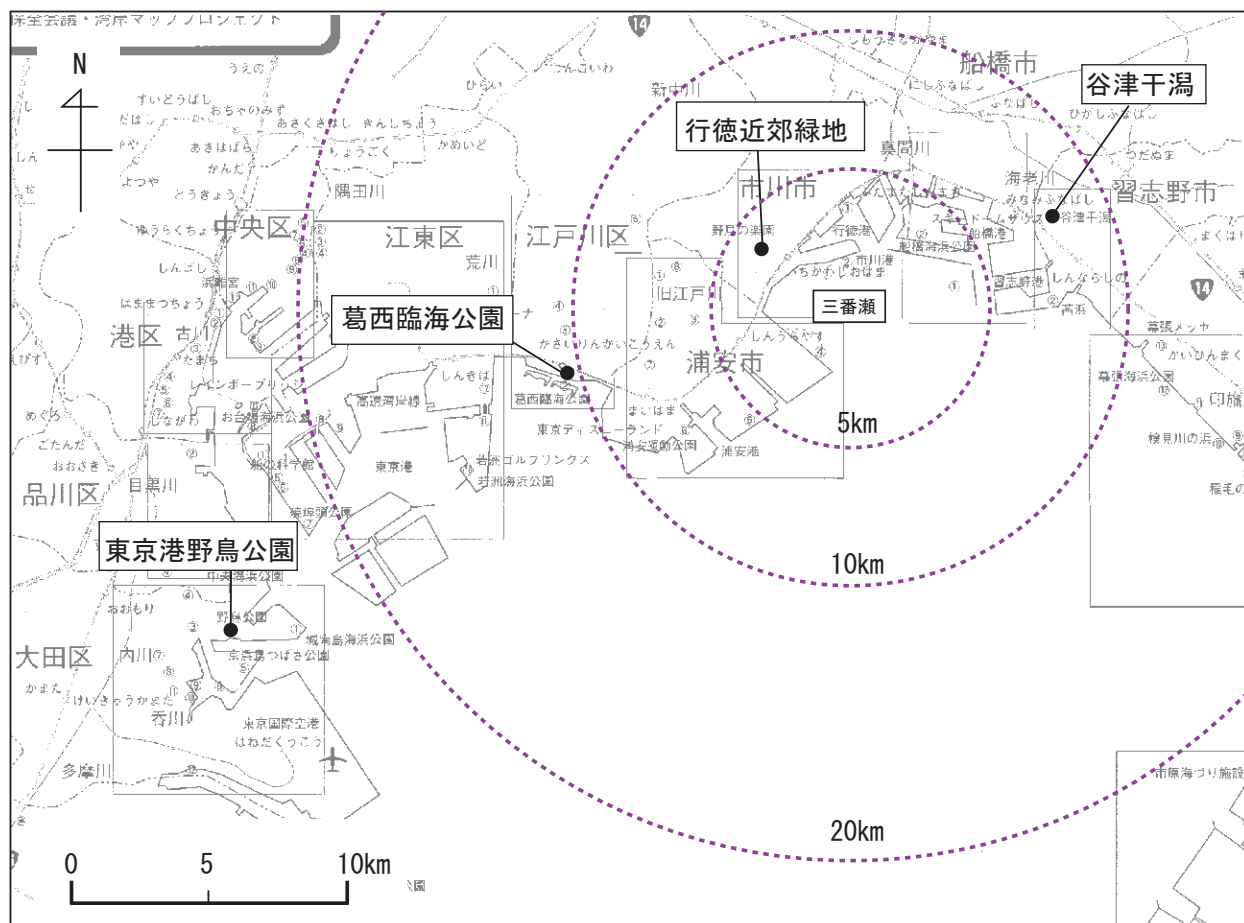
[資料：福岡市下水道局]

博多湾内に流入する各水処理センターでは、下水中のりんを除去する高度処理施設を整備しており、りんに対する高度処理の整備率は平成11年度以降は100%である。窒素の高度処理については、現在東部水処理センターにおいて実証実験を行っている。また、和白水処理センターの排水は、海水淡水化施設の排水と混合し、アイランドシティの西側に放流するようになり、湾奥部の水質改善効果が期待されている。

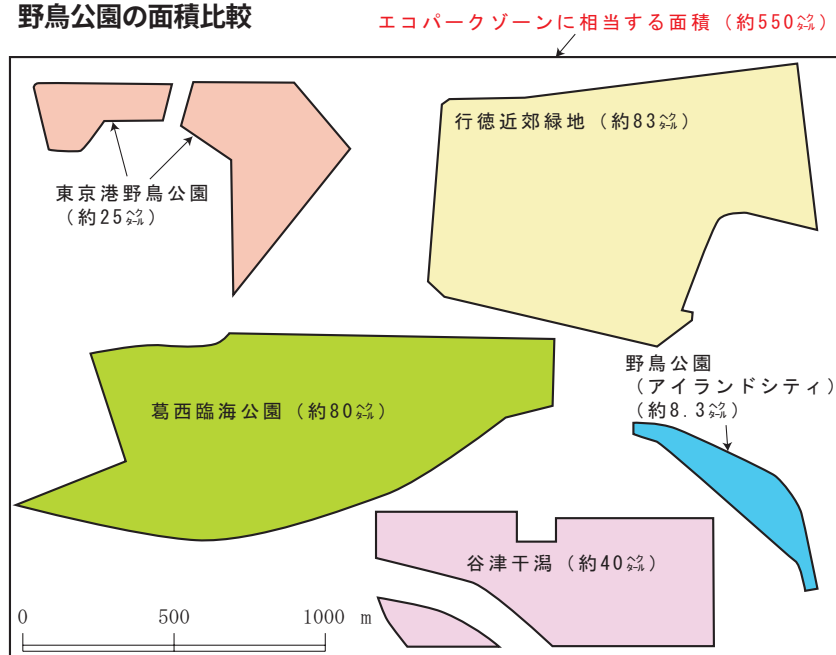


## ■東京湾周辺野鳥公園の位置と面積

### 東京湾周辺野鳥公園の位置



### 野鳥公園の面積比較



既存の野鳥公園の整備方法，課題，運営方法等について知見を得るとともに，本基本構想の策定に資するために，東京湾周辺の野鳥公園の視察調査を行った。これらの公園の面積は25～83haとアイランドシティ野鳥公園より大規模である。

## 東京湾周辺野鳥公園の特性比較表

| 大区分    | 小区分          | 谷津干潟                                                  | 行徳近郊緑地                                                                            | 葛西臨海公園                                                                | 東京港野鳥公園                                                                                      |
|--------|--------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施設概要   | 面積           | 40ha                                                  | 83ha                                                                              | 80ha<br>(鳥類園27ha)                                                     | 25ha                                                                                         |
|        | 中核施設         | 自然観察センター                                              | 野鳥観察舎                                                                             | ウォッチングセンター                                                            | ネイチャーセンター<br>(屋上・壁面緑化)                                                                       |
|        | 施設内          | ・観察コーナー<br>・展示コーナー<br>・レクチャールーム<br>・喫茶食堂              | ・観察室 図書室<br>・展示室 視聴覚室                                                             | ・展示室<br>・レクチャールーム                                                     | ・観察室 視聴覚室<br>・展示室 図書コーナー                                                                     |
|        | 屋外観察施設       | ・観察壁<br>・観察デッキ                                        | ・観察小屋<br>・観察壁                                                                     | ・観察舎<br>・観察壁                                                          | ・観察小屋<br>・観察壁                                                                                |
|        | 水辺<br>(池、干潟) | ・干潟(既存)<br>・淡水池                                       | ・汽水池<br>・淡水池                                                                      | ・汽水池 淡水池<br>・砂浜(西なぎさ・東なぎさ)                                            | ・汽水池 淡水池<br>・干潟(汽水池内)                                                                        |
|        | 緑地           | ・ヨシ原 草地<br>・樹林                                        | ・ヨシ原 草地<br>・樹林                                                                    | ・ヨシ原 草地<br>・樹林                                                        | ・ヨシ原 草地<br>・樹林                                                                               |
|        | 立入制限         | ・干潟内への立入不可<br>・木製観察路(総延長約400m、幅約95cm)の開放は年数回のみ        | ・保護区内立入禁止(平日)                                                                     | ・東なぎさへの立入不可(橋がないため)                                                   | ・汽水池、淡水池の観察場所を制限                                                                             |
| 地域特性   | 周辺の干潟        | 三番瀬                                                   | 三番瀬                                                                               | 荒川・旧江戸川河口干潟                                                           | 多摩川河口干潟                                                                                      |
|        | 住宅の存在        | 対岸に中高層住宅                                              | 観察舎周辺に低層住宅                                                                        | (周辺に住宅なし)                                                             | (周辺に住宅なし)                                                                                    |
|        | 交通アクセス       | ・駐車場約100台<br>・最寄り駅より徒歩20分                             | ・駐車場20～30台<br>・最寄りバス停より徒歩10分<br>・首都高速ICから3km                                      | ・駐車場2700台<br>・JR専用駅(公園内)<br>・首都高速ICから1km<br>・海上バス                     | ・駐車場約40台<br>・最寄りモレール駅より徒歩約15分<br>・首都高速ICより約10分                                               |
| 自然的特性  | 鳥類相          | ・シギ・チドリ類、海ガモ類、陸ガモ類をはじめとする水鳥・水辺鳥                       | ・シギ・チドリ類、海ガモ類、陸ガモ類をはじめとする水鳥・水辺鳥<br>・小鳥類、猛禽類                                       | ・シギ・チドリ類、海ガモ類、陸ガモ類をはじめとする水鳥・水辺鳥<br>・小鳥類、猛禽類                           | ・シギ・チドリ類、海ガモ類、陸ガモ類をはじめとする水鳥・水辺鳥<br>・小鳥類、猛禽類                                                  |
| 人との関わり | 啓発・環境教育      | ・センター内の掲示板<br>・パンフレット等啓発物<br>・観察会<br>・HP(最新情報、ライブカメラ) | ・観察舎内の掲示板<br>・パンフレット等啓発物<br>・すずがも通信(NPO法人発行)<br>・観察会<br>・NPO法人のHP(最新情報)           | ・センター内の掲示板<br>・パンフレット等啓発物<br>・観察会<br>・NPO法人HP(最新情報)                   | ・センター内の掲示板<br>・パンフレット等啓発物<br>・観察会(毎月3～10回)<br>・体験活動(ヨシ刈り、竹炭焼きなど)<br>・HP(最新情報、メルマガ)           |
|        | NPO等との連携     | ・自然観察指導、啓発物作成等を(財)日本野鳥の会に業務委託<br>・スタッフ常駐              | ・鳥類調査、湿地管理業務の一部及びソフト面を含めた観察舎管理をNPO法人に委託<br>・スタッフ常駐                                | ・運営および環境管理作業をNPO法人に委託(土曜・日曜・祝日のみ)<br>・平日はスタッフなし                       | ・自然観察指導、環境調査、環境管理業務を(財)日本野鳥の会に委託<br>・グリーンボランティア約80名<br>・シルバーガイド約50人登録(行事協力、管理協力等)<br>・スタッフ常駐 |
|        | ユニバーサルデザイン   | ・木製観察路は幅約95cmと狭い                                      | ・保護区内園路は狭く、未舗装                                                                    | ・園路は広く、舗装                                                             | ・園路は一部狭く、未舗装<br>・起伏あり(当初計画で主動線は車いすを考慮した勾配)                                                   |
| 国際的取組  |              | ・ラムサール条約登録<br>・東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要湿地ネットワーク参加      | —                                                                                 | —                                                                     | ・東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要湿地ネットワーク参加                                                           |
| 管理     | 順応的管理        | ・鳥類調査<br>・アオサの除去(有償ボランティア)                            | ・鳥類調査<br>・開放水面確保のための草刈り<br>・底質改善のための池干し<br>・トラクターによる耕耘<br>・ヨシ原を使った生活排水の浄化実験<br>など | ・鳥類調査<br>・池の水深調整(春・秋季はシギ・チドリのために浅く、冬季はカモのために深く、夏はヨシの成長抑制のために深く)<br>など | ・環境調査<br>・トラクターによる東泥湿地の耕耘<br>・東泥湿地の水量管理<br>・耕耘・水量管理の効果検証<br>など                               |
|        | 採算性          | ×                                                     | ×                                                                                 | ○                                                                     | ×                                                                                            |

## ■用語解説

| 用語      | 解説                                                                                                          |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環境基準    | 人の健康を保護し、および生活環境を保全する上で維持されることが望ましい行政上の目標として国が定めた具体的な数値基準のこと。                                               |
| COD     | 水中に含まれる有機物が酸化剤によって酸化されるとき、消費された酸化剤の量をそれに相当する酸素の量で表現したもの。CODの量は主として水中に含まれる有機物の量を表す。CODは海域・湖沼での汚濁の指標として用いられる。 |
| 全窒素・全りん | 水中や底泥中に色々な形態で存在する窒素・りんのこと。窒素・りんは共に、植物プランクトンの増殖を支配する物質であり、富栄養化の指標である。                                        |
| DO      | Dissolved Oxygenの略で、水中に溶けている酸素量のこと。                                                                         |
| 塩沼地植物   | 定期的な海水の干満を受ける塩沼地に生育する植物のこと。                                                                                 |
| 陸ガモ・海ガモ | カモ類は、水面で食物をとるヒドリガモ・マガモ・オナガガモなどの陸ガモ類と、潜水して食物をとるスズガモ・ホシハジロなどの海ガモ類に区分される。                                      |
| 覆砂      | 底質の改善のため、海底上に清浄な砂を敷き詰める工法のこと。                                                                               |
| 作潯      | 海水交換を促進するため、浅海域や干潟域に局部的に深い溝を掘る工法のこと。                                                                        |
| 養浜      | 海岸線に沿ったある区域に、人工的に砂を補給または新たに投入し、人工の砂浜（人工海浜）を造成すること。                                                          |
| 下水高度処理  | 下水道の終末処理場等において、有機物を分解する現在の機能を一層高度化していくことのほか、水質汚濁の原因となるリンや窒素を除去する処理のこと。                                      |